

LPガスを正しく使って、いつも安心。

いつも青い炎でお使いください。

- ガスをお使いのときは、炎は必ず「青い炎」でお使いください。赤っぽい炎は、不完全燃焼をしている炎です。



酸素過多

酸素不足

完全燃焼

点火・消火は必ず目で確かめてください。

- ガス機器の近くに、燃えやすいものは置かないでください。
- マッチ等にて点火する場合には、点火後器具栓を開いてください。
- 風や煮こぼれで火が消えたり、天ぷらを揚げているときに、鍋の中の油に火が着くことがあります、たいへん危険です。ガスを使っているときは、その場を離れないようにしてください。火を使っている間は「何があっても、その場を離れない」ということを心がけてください。



ゴム管はときどき点検し、早めに交換してください。

- ガス栓に適合するLPガス用ゴム管または専用ホースを使用ください。
- ゴム管は、過度に長いものを使用しないでください。
- ひび割れや焼け焦げなどが発生しているゴム管は使用しないでください。
※ゴム管からのガスもれの点検は、石けん水を塗り泡が出るかで分かります。(泡が出た場合は、すぐに新しいゴム管に取替えてください。) また点検後はきれいに拭き取ってください。
- ゴム管は、ガス栓の赤い線のところまで差し込んで、ホースバンドでしっかりとめてください。
- ゴム管は、物かけを通したり、折り曲げたりしないでください。
- 三つ又は危険なので、絶対に使用しないでください。



着脱が簡単で確実なコンセント型の専用ホースをおすすめします。



ガスもれ防止のため、湯沸器やふろがまなどの固定式の燃焼機器とガス栓の接続にゴム管を使用することは禁止されています。直接ねじ接続するか、上のようなねじ接続の専用ホースで接続してください。

お願い! ガス機器のお手入れ

ガスこんろなどの目づまりは、不完全燃焼の原因となります。ときどき器具ブラシなどで掃除をしてください。ガス機器のお手入れなどで、ネジなどを取りはずす必要がある場合は、ご自身でお手入れせずに、必ずLPガス販売店へご連絡ください。



ガス栓は、使用時には全開で、使用後は完全に閉めてください。

- ガスをお使いになるときは、ガス栓を全開で、お使いにならない場合は、完全に閉めてください。また外出するときやおやすみ前には、ガス栓、器具栓が閉まっていることを確認してください。
- 使用していないガス栓は、絶対に開けないでください。
- 長期間ご不在になるときは、容器バルブを閉め、LPガス販売店にご連絡ください。
- 配管やガス栓をアースの代わりに使用しないでください。



小型湯沸器やガスストーブ等をご使用のみなさまへ

必ず換気してください。 ※過去に換気不足等によりCO(一酸化炭素)中毒を起し、死に至った事故事例があります。

- 室内でガス機器を使用するときは、換気扇を回したり、ときどき窓を開けて十分に換気をしてください。(冷暖房中にも忘れずに。) ※ガスの燃焼には、たくさんの空気を必要とします。換気が十分に行われないと、酸素不足や室内に排ガスが充満して不完全燃焼を起し、有害なCO(一酸化炭素)が発生する恐れがあるため、たいへん危険ですので、十分な換気をしてください。
※点火時やご使用中に火が消える場合は、安全装置が作動している可能性がありますので再点火は行わないで直ちに使用を中止し、ガス機器の購入先やLPガス販売店または保安機関(連絡先は表紙に記載)にご連絡ください。



- 排気のフィンが、ほこりなどで目づまりしていないか確認してください。
- 小型湯沸器をお風呂に使ったり、シャワーとして使用することは絶対におやめください。
- 室内でガスストーブ、ガスファンヒーターを使用するときは、必ず30分に1回1分間程度、窓を開けて換気してください。

自然排気式のふろがまをご使用の方に

- 下のような自然排気式(煙突の付いたもの)のふろがまを使用するときは、換気扇を使用しないでください。(気圧の変化により排ガスが逆流してCO(一酸化炭素)中毒を起すことがあります。)
- 排気筒がこわれていたり、鳥の巣などでふさがれてしまうと適切な排気ができなくなります。こまめに点検しましょう。

ご要望により、CO点検を実施いたします。なお、CO点検で異常があったガス機器は、直ちに交換をしてください。不完全燃焼防止機能が付いていない又は老朽化したガス機器は、交換をお願いします。